

志賀自然教育研究施設年報

平成5（1993）年2月～平成6（1994）年1月

I 人事異動

施設長の任期終了に伴う後任に、引き続き和田清が選出された。任期は平成5年4月1日から7年3月31日まで。

II 運営委員会

平成5年5月24日（学部会議室）

平成4年度事業及び決算報告、平成5年度事業計画及び予算案審議

原案どおりそれぞれ承認され、例年のように予算補助を学部に依頼することになった。

その他

- ・前年度に立案された志賀施設の改組計画に基づく、概算要求状況について事務長より報告があり、種々質疑応答があった。

①全学的な立場での改組計画はあるか。

②いわゆる時限つきにどう対処するか。

の二点が特に指摘され、志賀施設独自の改組計画はかなり厳しい実情がうかがわれた。

- ・志賀施設の利用者が支払う付帯使用料の値上げについて、夏期料金810円を890円に、冬期料金1120円を1270円にそれぞれ改定。平成5年4月1日から施行、適用されることが報告された。

平成5年10月1日（志賀施設）

平成7年度概算要求について

前年度に策定した施設改組計画による概算要求事項を今年度も引き続き提出し、学部改組計画もあるので取扱は学部長一任とすることになった。

本年度予算配分について

当初配分予算が決定したが予算案と配分額の差が厳しく、特に管理費に関して種々意見交換があった。今年度も補正予算は組まずに各予算項目で調節していくことになったが、予算書作成方法について再考する必要がある。

主行事の実施状況と今後の予定（詳細は後述）

学生合宿研修、公開講座「郷土の自然を探る」「自然観察法入門」等の主な行事の実施状況と後期開講授業（環境教育概論）等の予定について報告された。

施設整備について（詳細は後述）

特に自然教育園の観察路維持管理について意見交換があった。昨秋に改築された野外トイレ（長池公衆トイレと新称）に待望の公衆電話が設置された。

研究業績第31号の発行について

平成6年3月末の発行を予定して、1月20日締切で原稿募集をすることになった。

その他

終了後、志賀園内とカヤノ平分園を視察した。

〔運営委員〕任期：平成6年3月まで、○印は常任委員、以下、いずれも敬称略

（国）梅原恭則、（社）小俣盛男、（教）○松岡榮、（理）中村浩志、（音）久保信男、（美）関谷俊行、（体）○渡辺敏明、（技）嵩哲夫、（家）粟津原宏子、（英）○谷本泰子、（特）小島哲也、

(幼) ○布谷光俊, (教) 馬場将光, (心) 野口宗雄, (教育実践センター) 土井進, (施設長) ○和田清, (専任) ○渡辺隆一
 (事務局) 丸山事務長, 清水同補佐, 金井管理係長, 大日方同主任, 米倉会計係長, 西沢用度主任, 宮入学生係長ほか
 (施設職員) 別府桂, 春日基文

III 自然教育園の整備

前年度に長野県事業として改築された野外トイレが, 新たに長池公衆トイレとして, 地元, 山ノ内町の管理のもとにこの5月から使用開始となった。また, 公衆電話の取りつけも各方面に陳情していたところ設置された。大学施設では何かと制約されてどうしてもできなかったが, 蓮池と木戸池の中間にあつてようやく緊急連絡用にも都合よくなった。長池の畔までの歩道は, 車椅子も使用できるよう平坦に整備されたが, 路面の固定が不十分なため春になって手直しがあつた, これも歩きやすい観察路となった。

これで, 下の広場は実質的にメイン広場として生まれ変わった(写真別掲)。

IV 志賀施設の改組計画

今回の志賀施設改組計画は, 教授会等の意見を聴取しながら平成4年度の運営委員会で立案したものである。それに基づいて, 4年度, 5年度の概算要求がなされて来た。しかし, 前述の運営委員会報告のようになかなか厳しい現状である。

これまで, 積極的に志賀施設を改組しようという計画は昭和60年までで, それ以後はむしろ停滞していた。特に, その直後におとずれた助手定員の削減は, 現員を置いたまま何の対策もなしに実行されるという荒ら技であった。それ以来全く無視され続け, 難題が吹き出す度に対処療法的な繰り返して, 何ら抜本的解決とはならず今日に至っている。その間, 大学院の設置, 教育工学センター改組の終了後は, 志賀施設の改組に取り組むと教授会等で公言し, 人事交流の機会にも約束した学部長もいたが進展していない。

教養部問題が急速に浮上して来た今日, 既に指摘されているような全学的な視野での改組か, それとも, 全国の教員養成大学で動き出した環境教育系センターへ改組すべきかという選択肢は増えたが, いずれにも対応できるよう改組計画は柔軟に準備されている。

V 研究と教育活動

(1) 研究活動

教員養成大学・学部等教官研究集会(東京学芸大, 文部省等主催, 2月18日~19日)参加ほか, 施設員各自の研究を推進し, 日本環境教育学会, 日本科学教育学会等で口頭発表, 当研究業績, 信州大学環境科学年報等に論文発表して来た。

総合科研(東京農工大小倉紀雄教授代表, 生物圏保存地域における生物学的多様性の保全に関する研究), 自然教育園内調査ほか。

(2) 教育学部志賀実習

今年度の教員養成課程学生合宿研修(総勢320名)は, 以下のように実施された。

1班: 6月28日~30日	2班: 6月30日~7月2日	3班: 7月5日~7日
4班: 7月7日~9日	5班: 7月12日~14日	6班: 7月14日~16日
7班: 7月19日~21日	8班: 7月21日~23日	9班: 7月26日~28日
10班: 7月28日~30日		

(3) 大学公開講座

「郷土の自然を探る」

6月20日 志賀高原の自然観察 7月18日 湯の丸高原の自然観察

「自然観察法入門」

8月7日～8日 志賀施設で一泊二日，特別講師に下平真樹氏（伊那中教諭）

(4) 教育学部授業

「環境教育概論」後期2単位で開講。自由選択科目にもかかわらず年々増えて、今年度は24名の受講があった。

(5) 環境教育セミナー（教育学部会議室，一般公開）

3月13日 赤羽貞幸氏による「乾燥地域，シリアの自然環境」

(6) 研修会ほか

7月15日 下高井郡小・中学校初任者研修

8月20日～22日 大学公開講座（カウンセリング・ワークショップ，教育心理学科主催）

8月25日～26日 長野地区国立学校・機関合同中堅者職員研修会

10月6日～8日 金沢大学理学部植物分類学実習（清水建美教授ほか）

(7) 主な観察会支援活動

4月25日 雪上自然観察会（志賀高原自然教室主催）を自然教育園内で開催ほか多数。

尚，例年実施されて来たカヤノ平自然観察会（木島平村主催）は，7月17日，18日に予定されていたが総選挙とかけ合ったため急遽中止となった。最近のカヤノ平は，中学校の野外キャンプや家族等々のグループで賑わい，信大ブナ原生林教育園（志賀施設分園）を訪れる人びとが増えて来た。

（文責，和田清）

平成4年度志賀施設資料館入館者数の集計表

表1 来館団体の種類

	県 外		県 内		計	
	団体数(%)	人 数(%)	団体数(%)	人 数(%)	団体数(%)	人 数(%)
小 学 校	10 (10.6)	795 (14.4)	6 (42.9)	102 (12.4)	16 (14.8)	897 (14.2)
中 学 校	17 (18.2)	1,811 (32.9)	3 (21.4)	592 (72.2)	20 (18.5)	2,403 (37.9)
高 等 学 校	7 (7.4)	1,435 (26.1)	—	—	7 (6.5)	1,435 (22.7)
大 学	7 (7.4)	156 (2.8)	1 (7.1)	21 (2.6)	8 (7.4)	177 (2.8)
一 般	53 (56.4)	1,311 (23.8)	4 (28.6)	105 (12.8)	57 (52.8)	1,416 (22.4)
計	94(100.0)	5,508(100.0)	14(100.0)	820(100.0)	108(100.0)	6,328(100.0)

表2 団体の県内外の比率(%)

団体の種類	小 学 校	中 学 校	高等学校	大学,短大	一 般	計
県 内	37.5	15.0	0.0	12.5	7.0	13.0
県 外	62.5	85.0	100.0	87.5	93.0	87.0

入館者数は微増だが，ほぼ前年並みであった。5月が少なくなったのは，残雪が遅くまでであったためと思われる。志賀高原の全域では，冬期シーズンを除くと学校単位での来訪数は近年減少しているという。

表3 月別参観者数

月	個人 (%)	団体		計 (%)
		団体数 (%)	人数 (%)	
5	80 (2.1)	4 (3.7)	179 (2.8)	259 (2.5)
6	172 (4.6)	11 (10.2)	551 (8.7)	723 (7.2)
7	692 (18.5)	42 (38.9)	3,288 (52.0)	3,980 (39.5)
8	2,431 (64.8)	40 (37.0)	1,678 (26.5)	4,109 (40.8)
9	227 (6.1)	3 (2.8)	134 (2.1)	361 (3.6)
10	147 (3.9)	8 (7.4)	498 (7.9)	645 (6.4)
計	3,749(100.0)	108(100.0)	6,328(100.0)	10,077(100.0)

平成4年度附属志賀自然教育研究施設月別宿泊利用人数

区分		年・月												計
		4年				5年								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(人)
利用人数	学内	0	0	15	0	3	0	10	0	20	70	160	112	390
	合宿研修等	0	0	41	301	33	30	0	0	0	0	0	0	405
	学外	0	30	20	0	58	0	0	0	0	87	51	13	259
	計	0	30	76	301	94	30	10	0	20	157	211	125	(1,180) 1,054
宿泊延人数	学内	0	0	15	0	7	0	10	0	27	106	276	221	662
	合宿研修等	0	0	82	602	33	30	0	0	0	0	0	0	747
	学外	0	30	39	0	110	0	0	0	0	205	92	13	489
	計	0	30	136	602	150	30	10	0	27	311	368	234	(2,124) 1,898

() 内は平成3年度の数



下の広場に改築された長池公衆トイレ